

イギリス滞在記

By ユキーナ・富塚・サントス

1	ロンドン見聞録.....	3
1.1	ひよっこりひょうたん島.....	3
1.2	窓際族のススメ.....	4
1.3	ターナーの空.....	7
1.4	ターナーの故郷.....	8
1.5	イングリッシュペイシエント.....	9
1.6	ラブ・アクチャリー.....	10
1.7	テス.....	11
1.8	イギリスで一番うまいもの.....	12
1.9	マイメット.....	14
1.10	イギリス人なるもの.....	16
1.11	笑う騎士.....	17
1.12	出張料理人伝説 in ロンドン.....	18
1.13	マークアンドスペンサー.....	19
1.14	前菜.....	20
1.15	プリモピアット（1皿目の料理）.....	22
1.16	炎の料理人.....	23
1.17	セコンドピアット（2皿目の料理）.....	24
1.18	ドルチェ（デザート）.....	25
1.19	エトロのかほり.....	26
1.20	レットイットビー.....	27
2	リーズ ロンドン郊外・田園の記録.....	28
2.1	嵐が丘.....	28
2.2	アジサイの丘.....	29
2.3	荒野への道.....	31

2.4	嵐が丘 2.....	32
2.5	紫が目にしみる.....	33
2.6	なっちゃんのパパ.....	34
2.7	実在か、観念か?.....	38
2.8	美について.....	40
3	スコットランド.....	42
3.1	スコティッシュアート.....	43
3.2	タトゥー.....	44
3.3	絵画の価値.....	50
3.4	威風堂々.....	53
3.5	ゴーウエスト.....	54

1 ロンドン見聞録

1.1 ひょっこりひょうたん島

またしてもザッパーアサンプション（大雑把な仮説）であるが、イギリスと言ってイメージする地理的範囲を大きな「ひょうたん」と仮定する。

おおざっぱ過ぎて怒られそうな表現ではあるが、UK とは「ひょうたん」島部分とこれにくくりつけられた、「となり」島の一部を言う。

ヨーロッパに暮らして早一年、恥ずかしながら、UK、ユナイテッド・キングダムとはいったい何を指すのか、どこのエリアを含むのか、私は理解していなかった。不動産を「なりわい」とし、マップちゃんの異名をとった私ではあるが、イタリアを離れ、イギリスおよびその周辺の地理的については、イマイチうとかった。

何よりもまず、今回の UK 滞在はこういったベーシックな知識の確認から始めた。

この「ひょうたん」島のくびれから北はスコットランド、くびれの南はイングランド、このイングランドのうち西側部分をとくにウェールズと呼ぶ。

くびれの西側に位置する、「となり」島がアイルランド。アイルランドは北端一部と南部にわかれる。

ひょうたん全部、および北アイルランドを総称してユナイテッド・キングダムというのだと今回やっと勉強した。ちなみにUKの国旗はこれらを構成するパーツである、イングランド、北アイルランド、スコットランドの各国旗を一枚にあわせたものである。

ヨーロッパが好きではあるが、これまでバリバリ、ラテンの国であるイタリアにどっぷり漬かっていたので、プロテスタントの国を訪れる機会がなかった。

プロテスタントの国であるオランダは、この春に、イタリアMBA生活から亡命するようにして旅した。そして今回思いがけず、UKに滞在する機会を得た。

イギリスは一度、14年前に訪れている。そのときはロンドンに2日滞在しただけだった。今回もまた、あわただしい日程ではあったが、この「ひょうたん」島にひょっこり滞在することになった。

「ものをおもわざる」昔とは異なり、世界のいろんな国を訪れ、様々な「カルチャー」にさらされてきた。ブリティッシュ訛りで話す友達もできた。今の私にとってはたとえ「ひょっこり」であっても、UKに住む人、その自然、その生活に触れることは、エキサイティングなものとなるに違いない。

1.2 窓際族のススメ

イタリア語で通路側の席をコリドイオという。飛行機にチェックインする際は、フィネストリーノ（窓際の席）か、コリドイオかと聞かれる。大雑把なイタリア人は、懇

切丁寧にお客の好みなぞ聞いてくれることはなく、たいていの場合、自分で好みを告げなければならない。

トイレに行く際の便利さ、着陸後のフットワークの良さから、私はいつもコリドイオを希望している。

が、しかし、チェックインの時間が遅かったり、様々な事情でフィネストリーノ、窓際にならざるを得ないことがある。不便を我慢していると「窓際も悪くない」と思える意外な効用を発見し、まさに「塞翁が馬」だなど一人納得する瞬間もある。

それは、息を呑むほどの美しい風景を窓から眺めたときである。

特に窓際からの眺めが楽しいのはローマである。着陸態勢に入り、高度を下げると、ローマの歴史地区の上空「すれすれ」に飛行航路を取ることがある。サンピエトロ大聖堂、コロッセオ、サンタンジェロ城などが眼下に見える。まさに手を伸ばせば届きそうなくらいで、思わず「絶景かな」と叫びたくなる。街自体が遺跡で溢れているローマは一度で良いから、空から眺めることをお勧めする。

ローマのような大都市ではなく、島に行くときも窓際確保を勧める。街並みだけでなく、海岸線の美しさ、海の青さも堪能できるからである。

この夏はイタリア本土のみならず、島を放浪した。シチリアもサルデーニャも島であるので、すかさず窓際の席をとった。ミラノを起点に考えればわずか数時間のフライトであり、一度席につき、シートベルトをしめれば、滅多に席を立つことはない。

白い雲の間から眺めるシチリアの海岸、サルデーニアの荒々しい山とこれとコントラストを成す紺碧の海岸・・・やっぱり窓際だなあと思いながら私は夢中でカメラのシャッターを押していた。

さて、今回の UK 入りも 3 時間程度のフライトであるが、当然ながら窓際を取った。